

遺伝性のがんの患者と家族への看護

【キーワード：遺伝性腫瘍、HBOC、遺伝がん看護】

領域・氏名

看護（成人看護学）准教授／ 矢野朋実

概要

遺伝性のがん、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の方とその家族を対象に、彼らが認知する“不確かさ”について明らかにし、“不確かさ”のマネジメントを促進する看護援助モデルを構築しようとする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

第3期がん対策推進基本計画の策定を契機に、わが国も本格的ながんゲノム医療時代に突入しました。この中で、遺伝性のがん（遺伝性腫瘍）も注目されています。

遺伝性腫瘍の医療体制は構築半ばです。九州圏内のがん臨床看護職を対象にした遺伝性腫瘍の認識に関する調査（2016年実施）では、がんと遺伝に関心はあるものの、遺伝性腫瘍の知識を持つ者はわずかでした。看護師の知識の底上げが求められています。

遺伝がん看護を行うにあたり、対象理解が前提となります。身体面に関することは研究が進んでいますが、心理面について国内ではほとんど明らかにされていません。そこで、心理的側面を、質的、量的に明らかにすることで、対象理解を深め、それに基づいた看護支援を見出していきたいと考えています。

Information（情報）

遺伝性のがん、がん教育、手術を受ける患者・家族の看護、救急医療における看護に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生や一般市民を対象にした救急蘇生法の講習も実施しています。